

新潟市総合計画について

答 申

令和4年10月4日

新潟市総合計画審議会

答 申

令和 4 年 1 0 月 4 日

新潟市総合計画審議会

大合併により「都市と田園が調和する都市」として、大きな強みを
得た新潟市は、平成 1 9 年 4 月に政令指定都市として新たなスタート
を切り、今年で 1 5 年を迎えました。これまで築いてきた安心安全を
土台に、未来に向かって着実に歩みを進めてきたと認識しています。

一方、全国的な人口減少、近年各地で激甚化・頻発化する自然災害、
変化する国際情勢、新型コロナウイルス感染症による社会変化、デジタ
ル化の急速な進展など、新潟市を取り巻く社会環境は、大きく変化して
います。

大きく動き続ける時代潮流の中で、この素晴らしい新潟市を未来に向
かってさらに進化させ、よりよい形で次の世代に引き継いでいくことが
私たちに課せられた重要な役割です。次期総合計画は、明るい未来を
実現するため、将来起こり得る変化や課題を見据え、現時点から取り組
むべきことを私たちに指し示す道標とならなくてはなりません。

本審議会は、令和 4 年 6 月 2 8 日、総合計画素案の諮問を受け、4 つ
の部会を設置し、市民や多様な主体が中心となったパートナーシップの
まちづくり、新潟への誇りと愛着の醸成、新潟市を取り巻く状況や活か
すべき強み、データや新たな技術の活用といった視点を踏まえながら、
専門的な見地や、地域・市民などまちづくりの主体としての立場に立っ
て審議を重ねてきました。

審議にあたっては、新潟市が目指す都市の姿や、その実現に向けたま
ちづくりの方向性をわかりやすく市民や多様な主体と共有し、互いに連
携・協働しながら取り組んでいくことのできる計画となっているかとい
う観点から検証を行いました。

その上で、市民一人一人が明るい夢や希望を持つことのできる、活力
あふれるまちを築くとともに、安心・安全に暮らせる豊かな状態でこの

まちを引き継いでいけるよう、これからの新潟市が進むべき方向性について、活発に議論を重ねてきました。

審議の結果、総合計画素案は、新潟市の次期総合計画としてふさわしい内容であると評価します。

なお、計画の実施にあたっては、基本構想で掲げた「みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』を進めます」の理念のもと、「田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」の都市像実現に向け、あらゆる分野の政策を相互につなぎ合わせながら、市民や民間事業者など多様な主体と連携・協働し、オール新潟市体制で進めていくよう要請します。

また、持続可能な行財政運営の確立を進めるとともに、新たに設定する成果指標を用いて客観的な評価検証を行い、政策効果の最大化と計画の適正かつ的確な進捗管理に努め、成果を市民と共有していくよう要請します。

このほか、特に留意すべき点としてまとめた以下の意見・要望を踏まえ、新年度からの円滑なスタートを目指し、計画策定を進めていくよう、要請します。

「新潟市総合計画審議会」素案への意見・要望

I 基本構想

2 まちづくりの理念

- ・環境の重要性が年々高まる中、単に自然と共存するのではなく、里山・里海・里潟のように市民と自然が共生するとともに、田園とともに自然をベースにしたまちづくりを目指していくといった方向性を打ち出していったほうが、新潟市の独自性が明確になるのではないかと。
- ・「心の豊かさ」は抽象的なので、市民の理解を促すため国の示すウェル・ビーイングの概念などを参考に説明を工夫してはどうか。
- ・「新潟市の現状・時代の潮流」の部分における、新潟市の現状の記載について、課題を明確にする上にも、強みだけでなくネガティブな現状も記載してはどうか。
- ・「これからのまちづくり」の一部で、一般論と新潟市のまちづくりの話が混在しているため、両者を区別し、論旨が明確になるよう工夫してはどうか。

3 目指す都市像

- ・目指す都市像は、総合計画の核心となる部分であるため、もう少し記載を追加してはどうか。また、1) ラムサール条約の湿地自治体に認定されたこと、2) 「都市と田園の好循環」をテーマにしたSDGs未来都市に選定されたこと、3) 新潟都心地区が「都市再生緊急整備地域」に指定されたことについては、目指す都市像の背景で重要であるので明記し、その他の箇所でもアピールしてはどうか。
- ・これからのまちづくりは、市民及び多様な主体とのパートナーシップが、中核的な推進力となることをわかりやすく示してはどうか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな経済」の項目に、近隣地域と連携・交流した地域活性化の視点を加えてはどうか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、高齢化社会に対応した地域の医療や健康、福祉、介護の充実をもう少し強調した記載としてはどうか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、ワーク・ライフ・バランスの範囲を子育てと仕事のみ限定しない方が良いのではないかと。

Ⅱ 基本計画

1 総論

(1) 人口ビジョン

② 人口の将来展望

- ・市レベルの人口減少が、社会保障に及ぼす影響が大きいことについて示してはどうか。

(2) 将来想定される変化・課題を見据えた政策展開

- ・バックキャスティングの視点に基づいた施策展開であることをもっと意識したものにしてはどうか。
- ・総務省の自治体戦略2040構想委員会の課題に対応する新潟市の課題を記載してはどうか。

(3) 土地利用方針

- ・自然環境の活用に関しては、ラムサール条約の精神であるワイズ・ユース（賢明な利用）の考え方を踏まえた記述としてはどうか。
- ・土地利用方針の考え方と基本理念・目指す都市像・重点戦略・区におけるまちづくりの方向性との整合性を図る必要があるのではないか。

2 新潟市を取り巻く状況

(2) 時代の潮流

⑤ デジタル化の急速な進展

- ・社会課題の解決に向け、マイナンバーカードに連携した地域共通ID創設などのデジタル化によって、新潟市内で行政サービス、地域経済、生活福祉、医療情報の一体化を目指すことを記載してはどうか。

⑦ 多様性を認め合い共に生きる社会への意識の高まり

- ・SDGsの原文に基づき、「誰一人取り残さない」ではなく「誰一人取り残されない」と記載してはどうか。

3 新潟市の強み

(1) 新潟市の強み

① 都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ

- ・新潟市においても生物多様性の危機が迫っていることを記述してはどうか。

② 国内外と結ばれた高い拠点性

- ・「国内外と結ばれた高い拠点性」は、地理的優位性と現状との間に乖離があることから、その点を踏まえた記載に修正してはどうか。

③ 全国トップクラスの農業力

- ・今後の状況を見据え「生態系の保全」を「生物多様性の保全」に修正してはどうか。

④ 世界に誇る豊かな食

- ・新潟市の食と農の強みを活かした特色を、より多面的に情報発信していく必要があるのではないか。

4 政策・施策の全体像

(1) 政策・施策の全体像

② 成果指標の設定

- ・成果指標の設定に際しSDGsの関連を意識するとのことだが、SDGsの指標に矛盾する部分もあると考えられるので、あまり偏らないほうが良いのではないかと。

③ 総合指標

- ・総合指標に市民世帯当たりの平均所得を入れてはどうか。
- ・総合指標の④「将来世代のことも大切に持続可能なまちづくりが進んでいると思う市民の割合」は、「将来世代に引き継ぐ目線で見たと新潟市の評価」という趣旨より、「新潟市を将来世代に引き継いでいけると思う市民の割合」としてはどうか。

④ 政策・施策を推進する5つの視点

- ・「活力あるまちづくり」「持続可能なまちづくり」の実現に向けて、「経済」「社会」「環境」の三側面の豊かさを調和し高めるとともに、その三側面の基盤となる「ひと=市民」に視点を当てた重点戦略を「見える化」できると、新潟市としてのオリジナリティがでるのではないかと。
- ・新潟市のポテンシャルの高さを市民や多様な主体との間で共有し、誇りや愛着に昇華させていくプロセスが見えるようにしてはどうか。

5 重点戦略

- ・前半部分に記載されている、将来想定される変化・課題、新潟市の強み、政策・施策を推進する5つの視点などの要素が、後半部分の政策・施策等に必ずしも反映されていないように見えるため、それらを意識していることがわかるような記載にしてはどうか。
- ・各分野の政策・施策は相互に関連していることから、包括的に展開していくことがわかるような記載にしてはどうか。
- ・説明を聞いて初めてその意図がわかることが多いため、どのような背景や考え方に基づいてその文章が書かれているかがわかるよう、ストーリー性を意識した記載にしてはどうか。
- ・総合計画全体として、若者がこのまちに残りたいと思えるよう、若者にとって魅力的なまちになるというメッセージを打ち出せると、他の施策も生きてくると思われる。意識的にキーワードを盛り込むなど、子どもや若者に向けた施策をよりわかりやすく見せてはどうか。
- ・「具体的な施策」について、他の言葉と混同しないように表現方法を工夫してはどうか。

(1) 重点戦略について

- ・「重点戦略の位置づけ」に記載の「産官学金労言士」という記載について、市民が含まれていることがわかるような表現にしてはどうか。

(2) 重点戦略

重点戦略1 都市機能の充実と拠点性の向上

- ・「学べる」「自分らしく働ける」「遊べる」などといった観点に加え、安心して暮らせるという視点も記載してはどうか。
- ・新潟駅から新潟空港までのアクセスについて、利便性向上などの対策・検討について記載してはどうか。

重点戦略6 誰もが個性と能力を発揮しながら、心豊かに暮らせる 共生社会の実現

- ・政策目標として「共生社会」の実現を上位目標とするのか、「地域共生社会」の実現を上位目標とするのか整理してはどうか。
- ・具体的な施策に記載する分野、施策の記載順について、構成を検討してはどうか。
- ・地域活動の担い手育成・確保に関する内容を追加してはどうか。
- ・生活習慣病への対応だけでは健康寿命は延伸しないと思われるため、他の要素に

についても触れるなど表現を工夫してはどうか。

- ・戦略展開の方向や具体的な施策の内容と政策指標の整合性を図ってはどうか。
- ・いろいろな形の家庭を認めたり尊重することが計画の中でわかるようにしてはどうか。
- ・「子どもから高齢者まで…」という言葉は、子どもと高齢者に意識が向き 20代から 50代くらいまでの当事者感覚が薄くなってしまふことがあるため、「誰もが」を加えるなど表現を工夫してはどうか。

重点戦略7 子育てしやすいまちづくりとこれからの社会をたくましく生き抜く力の育成

- ・教職員の働き方の改善や教育の質の向上という要素を盛り込んでどうか。

重点戦略8 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現

- ・仕事や子育て環境に係る新潟市の強みを、戦略展開の方向に加えてはどうか。

重点戦略9 脱炭素・循環型社会の実現

- ・戦略展開の方向の中で、気候変動への対策について記載してはどうか。
- ・「脱炭素・循環型社会の実現」を「脱炭素・生物多様性保全・循環型社会の実現」としてはどうか。また、具体的な施策に「生物多様性の保全の推進」を新たに入れてはどうか。

6 各分野の政策・施策

(2) 各分野の政策・施策

分野1 市民活躍

政策1 誰もが個性と能力を発揮し活躍できるまちづくりの推進

- ・新潟市は先行してパートナーシップ宣誓制度を導入しており、そういう方々も胸を張って活動しているというのは良いことだと思われることから、総合計画の中に「LGBTQ」への理解について、盛り込んでどうか。
- ・市の方向性を示す意味でも、市がジェンダーの問題を常に考えながら様々な政策に取り組んでいくということが分かるような記載にしてはどうか。
- ・男女共同参画に関する部分について、現計画から改善された点も記載したうえで、その一方、依然として足りない部分があるという作りにしてはどうか。
- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「人権に対する関心」及び「施策5 人権を

尊重する社会の推進」について、人権教育や啓発の実施に対し、積極的な姿勢が伝わるような表現に変更してはどうか。

- ・「施策1 地域団体・市民団体の活動の推進」①地域団体・市民団体の活動支援 の中の「地域課題の解決に向けた活動」という記載について、課題解決に限定した記載にせず、地域の魅力向上なども含む表現に拡大してはどうか。
- ・施策1 ②持続可能なコミュニティづくり について、活動を軽くしていくといった方向に読み取れてしまうので、表現を変更してはどうか。
- ・施策1 ②について、この部分に「地域経営」という言葉を表記してはどうか。
- ・施策1 ③活動の担い手育成・確保 について、男女共同参画の視点を入れてはどうか。
- ・「施策2 男女共同参画の推進」③DVの根絶とDV被害者への支援体制づくり について、DVの予防・防止及び加害者の更生に関する内容を加えてはどうか。
- ・「施策5 人権を尊重する社会の推進」について、性自認に関する記載を加えてはどうか。
- ・「政策指標 A. 地域活動に参加した経験のある市民の割合」について、市民活動も含まれるような表現にしてはどうか。

分野2 文化・スポーツ

政策2 文化芸術の発展・継承による心豊かな暮らしの充実

- ・「施策3 文化財等の保存・継承」①文化財等の保存・継承 について、ここに教育という目線を入れてはどうか。
- ・「施策4 文化芸術の価値の多面的展開」②文化芸術を社会課題の解決に活用 の、「社会課題の解決」について、具体的かつ前向きなイメージが湧くような表現にしてはどうか。

政策3 スポーツによる活力の創出

- ・「施策1 生涯スポーツ社会の実現」②スポーツを支える環境づくり について、現在、学校での部活動について、指導者の外部委託や地域移行などの話が出てきており、教育分野や地域などとの関連・連携について記載してはどうか。
- ・「施策2 競技力の向上、人材育成の推進」①選手・指導者の育成 について、今後、地域や生涯スポーツにおける指導者が非常に重要になっていくと考えられるため、その指導者の育成という点について、もう少し加筆してはどうか。
- ・「施策3 スポーツを活かしたまちづくり」①スポーツによる活性化、②スポーツの力をまちづくりに活用 について、それぞれ具体的なイメージが湧くような表

現にしてはどうか。

- ・施策3②について、年齢や居住地などに関わらず市民の誰もが、日常的にスポーツを楽しめるような環境づくりについて、もう少し盛り込んではどうか。

分野3 子育て・教育

政策4 結婚・出産・子育ての希望がない、 子どもが笑顔で健やかに育つ社会の実現

- ・「施策1 出会いから結婚・妊娠・出産・子育てにかけての切れ目ない支援」について、妊娠や出産には適齢期があることを、中学校や小学校高学年といった早い時期から教育することを盛り込んではどうか。
- ・施策1について、出会い・結婚と妊娠・出産が一緒に書かれていることでプレッシャーを感じる人もいると思われるため、これらを一つの施策にまとめるのが適切かどうかあらためて検討してはどうか。
- ・施策1②妊娠・出産・子育て期の包括的な支援 について、母親の負担を和らげるためにも、妊産婦の支援だけでなく父親あるいはパートナーへの支援ないし教育を盛り込んではどうか。
- ・親同士や専門職とのつながりをつくるため、子どもの権利を知るため、教育・保育施設等と保護者との良好な関係をつくるためにも、親として育ち、学ぶことができる機会を確保することを盛り込んではどうか。
- ・1人目のところの産後のケアを丁寧にしていくことが2人目、3人目につながると思われることから、産後ケアの充実など産前産後の支援を手厚くすることを盛り込んではどうか。
- ・新潟市として子育て支援に力を入れていることが市民に伝わるような見せ方をしていくとともに、情報発信にあたっては、必要な人に的確に届くように、より効果的な手法に見直していくことにしてはどうか。
- ・子育て支援に関係する機関が一体となって取り組むことでより効果が上がることから、関係機関の連携を進めていくことを盛り込んではどうか。
- ・子育て・教育の施策を推進するうえでは、担い手の量と質が担保されることが重要であることから、施策の内容に合わせた担い手の確保や研修等を通じた質の向上を進めていくことを盛り込んではどうか。
- ・労働時間の長さなど両親の働き方も子育てのしやすさに影響することから、経済分野と連携・協働しながら取り組みを進めていくことを盛り込んではどうか。
- ・市民の中にも子育てを支援したいと考える方々が大勢いることから、その方々の力を活かせるようコミュニティづくりや情報提供などの支援をすることを盛り込

んではどうか。

- ・子どもは地域や社会にとっての宝物であり、子育てに対して支援することはやがて高齢者にも返ってくる未来への投資であるという意識を持ってもらうことが重要である。さまざまな家庭の形があることを前提としながら、子どもや子育て家庭を地域や社会全体で支えていくことを盛り込んでどうか。
- ・子育てをする若い世代が参加できる地域のコミュニティを築いていくことが重要であり、結婚するという形だけではない多様な家族が、地域や社会の中でつながっていくことで、重点戦略6でいう共生社会の実現にも繋がると思われる。SNSなどを通じてそういった人たちが辿り着きやすいような環境を作るとともに、コミュニティに対する補助金などの支援やボランティアが集まるような環境を作っていくことを盛り込んでどうか。
- ・地域共生社会の実現に向け、子ども・子育て施策とも関連させながら重層的支援体制を構築することを盛り込んでどうか。
- ・子どもの権利を守ることを全体的な考え方として持ちつつ、さまざまな家庭があるなかでも経済的理由によって子どもたちが取り残されることのないように配慮することが重要ではないか。
- ・子ども食堂は、貧しい人たちのための場所ではなく、誰もが来てよい場所であることがわかるようにしてはどうか。
- ・「政策指標A. 婚姻件数」について、これからの時代は必ずしも結婚によらない多様な家庭の形が生まれてくると考えられるため、これを指標とするのが適切かどうかあらためて検討してはどうか。
- ・新潟市の子育て支援の取組は、民間の取組も含めて他の自治体にひけをとらないものであるにもかかわらず、有配偶出生率など子育てに関する指標が高まらない理由について、具体的にどの部分が不足しているのかを丁寧に分析してはどうか。
- ・新潟市は少子化対策のためにどのような政策・施策に取り組むのか、市民レベル、多様なアクターレベル、地域コミュニティレベル、行政区レベル、全市レベルでどのように重層的に取り組んでいくか、という点について新潟市独自の視点と対策の方向性を示してはどうか。

政策5 学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、 学校づくりの推進

- ・基本的方向に子育てと教育の連携に向けた方向性を示してはどうか。
- ・新潟市の現状／将来を見据えた課題のうち、「地域の課題解決」について、生涯学習の推進と地域課題の解決の関係性を整理して記載してはどうか。
- ・教育施策について、若者が地元を一旦離れても帰ってきたいと思えるよう、小さ

い頃から新潟への誇りと愛着を育むように取り組んでいくことがわかるように記載してはどうか。

- ・キャリア教育の推進にあたっては、令和2年度から導入された「キャリアパスポート」を上手く活用してはどうか。
- ・幼児期から生涯にかけて教育を保障していくことが大切であることから、幼児教育が見えるような形にしてはどうか。
- ・ICT教育について、タブレット端末などの活用にあたっては、それに依存したりネットトラブルにつながらないように節度ある使い方を意識することが重要である。子どもだけでなく保護者も含めて、ICTの特性について理解して適切な使用がされるように配慮することを盛り込んでどうか。
- ・インクルーシブ教育システムの構築について、特別支援学級と通常学級が乖離していくことのないよう、他者との違いや多様性を認めつつ、お互いのよさを認め合っていくような学びを実現できると良いのではないか。
- ・ギフテッド教育といわれる、特定の分野において特異な才能のある子どもたちに光を当てる支援について、新潟市も取り組んでどうか。
- ・「施策1 学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子どもを育む学校教育の推進」②豊かな心と健やかな身体の育成 について、性被害の増加や若年化が問題になる中、自分自身で身を守るためにも、性教育の要素を盛り込んでどうか。妊娠できる時期は限られていることなど、必要な時期に正しい知識を伝えることでキャリア教育や少子化への対応などにもつながるのではないか。
- ・教職員自身の暮らしが安定して幸福であることが、子どもたちにも良い影響をもたらすと思われる。教職員も主役であり、新潟市で先生として働きたいと思えるように、教職員自身の家庭が充実するような働き方の実現について盛り込んでどうか。
- ・保護者も地域住民の一員であるので、地域との連携にあたっては、保護者に対しても協力を働きかけてはどうか。
- ・新潟市では高校までを見据えた教育を行っていくことを示す必要があるのではないか。また、児童生徒向けアンケートによって測る政策指標についても、高校3年生まで対象にすることで、新潟市で育った子どもたちは、18歳まで地域への愛着やプライドを持ち続けることを示してはどうか。

分野4 健康・福祉

政策6 生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現

- ・新潟市が先行して医療・介護・福祉のDXを行うことが、拠点化を進めるうえで

重要だと思われる。国や県と連携しながら、さまざまな健診データの蓄積を活用した健康づくりを進めるなど、デジタル技術を活かした施策を盛り込んではどうか。

- ・感染症対策について、通常の感染症対策だけでなくパンデミックに対する対策を行っていくことを強調してはどうか。
- ・総合計画として、主観的なデータだけでなく客観的なデータも取り入れる方向性を示すと良いと思われる。政策6の政策指標のうち、市民アンケートによって測る「政策指標 B. 自分が健康だと思う市民の割合」や「政策指標 C. 新潟市の医療が充実していると思う人の割合」は、主観的な指標であるため、定量的な指標への変更や追加を検討してはどうか。
- ・生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現を図るうえでは、子どもたちが自身の健康を意識して生活していくことも重要であることから、子どもが自分の健康状態をどのように感じているかを測る指標も盛り込んではどうか。
- ・「施策1 こころと身体の健康の増進」④悩みを抱える人のこころの支援 について、周りを気にして過度に悩むことのないよう、自分らしさを大切にするという視点を盛り込んではどうか。

政策7 自分らしくいきいきと安心して暮らせる 地域共生社会の実現

- ・「地域共生社会」の実現は、福祉分野の政策・施策だけでなく、地方創生、まちづくり、教育、労働など、地域の持続性を高める施策との密接な連携が求められることから、それらを踏まえて盛り込んではどうか。
- ・基本的方向について、「心豊かな地域共生社会」というように「心豊か」という言葉を入れてはどうか。そのほかにもキーワードとして「心豊か」という言葉を積極的に使うと、新潟市は心豊かなまちを目指すことが若者などにも伝わるのではないか。
- ・自分たちの生活が今後どうなっていくのかというストーリー性のある説明やハートフルな言葉が盛り込まれていると、多くの人に身近に感じてもらえる計画になるのではないか。
- ・「地域共生社会」の実現にあたっては、支援をする側、受ける側だけではなく、市民一人一人がそれぞれの立場で参加することができる社会を作っていくことが重要である。多数派の方々だけではなく、LGBTのほか子どもや若者、一人暮らしの高齢者などの少数派の方々であったり、なかなか今の社会の中での生きづらさを感じている方々が、自分たちもこの地域の中で暮らしていったらいいのだと実感してもらえるような社会をつくることが見えるようにしてはどうか。

- ・政策名の「生涯にわたる健康で安心な暮らし」や「自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会」の実現を図るためには、いかに若いころから地域の中で関係性が築けるかということが重要だと思われる。子どものころから地域に関わり、中高年になっても地域と接点を持ち続ける重要性を強調してはどうか。
- ・若者に対する支援や困窮女性に対する支援の観点も盛り込んではどうか。
- ・介護や看護の人材確保の状況を測る指標を追加してはどうか。

分野5 産業・交流

政策8 地域経済に活力を生み出す産業の振興と雇用の創出

- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「市内所得と地域内経済循環」について、「政策8 地域経済に活力を生み出す産業の振興と雇用の創出」だけではなく、「分野5 産業・交流」の中で生み出すことが重要と記載を加えてはどうか。
- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「多様な人材の活躍」における、若者の市外への転出超過解消の取組について、企業誘致以外の要素も加えてはどうか。
- ・「施策1 地域企業の持続的発展に向けた経営支援」④地域経済の持続的発展に向けた取組 における商店街の施策について、取組が将来に向かってどのように進んでいくのか具体的に表現してはどうか。
- ・「施策2 地域経済の活性化に資する新たなビジネスの創出支援」において、挑戦を促す環境づくりへの取組を記載するとともに、官民連携を含めた地域ネットワークの活用などの要素を加えてはどうか。
また、起業・創業及び新規事業創出に向けた取組などに対し、柔軟に幅広くサポートしていくという方向性を表現してはどうか。
- ・施策2③戦略的な企業立地・誘致の推進 において、もう少し具体的な方向性や表現など、内容を加筆してはどうか。
- ・施策2④海外ビジネスの推進 において、海外事業の重要性や輸出促進に向けた取組の方向性を加えてはどうか。また、輸出について、個別事業の成果指標として捉えていくことを検討してはどうか。

政策9 都市と田園の調和を活かした持続可能な農林水産業の実現

- ・「儲かる農業」のイメージが掴みづらいので、イメージがわかるような記載を加えてはどうか。
- ・将来を見据えた課題として、日本の人口減少による需要の減少、海外の人口増加などを踏まえた、グローバルな観点からの記載を追記してはどうか。
- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「スマート農業の加速化」に、国家戦略特区

の指定が記載してあるが、国家戦略特区をタイトルとして、「大規模農業の改革」や「スマート農業の加速化」を記載する形にしてはどうか。

- ・「施策1 売れる米づくりと園芸産地づくりの推進」③意欲ある担い手等の確保・育成 において、担い手の確保・育成を図るうえで、ターゲットとなる後継者をどのように捉え、対策を講じていくのか補記してはどうか。
- ・施策1 ④新たな需要に応える農産物の生産体制の強化 における果樹の記載について、「需要はあるものの生産が著しく減少しており、それに対応するための支援を行う」という記載を補記してはどうか。
- ・施策1 ⑤所得拡大に向けた販売力の強化 において、販売促進・販路開拓の部分で具体的な方向性や若者の意見を取り入れたSNSでの広報など、もう少し記載を加えてはどうか。
- ・「施策2 農林水産業を活かしたまちづくり」において、農林水産業を活かした新しい事業やアイデアに対し、柔軟に幅広くサポートしていくという方向性を表現してはどうか。
- ・農業分野と防災分野は結び付くところがあることから、農業施設も防災や都市機能の維持に貢献していることを補記してはどうか。

政策10 魅力と拠点性を活かした交流の促進

- ・「施策1 新潟の魅力と優れた拠点性を活かした交流人口の拡大」①持続可能な観光の推進とおもてなし態勢の強化 において、「新潟ならではの」文化として古町芸妓を例示しているので、各区の地域資源についてもいくつか具体例を記載してはどうか。
- ・施策1 ②新潟の個性・魅力と拠点性を活かした誘客の促進 において、情報発信の相手を意識していることがわかるよう、また、「様々なメディア」の具体的なイメージが沸くように表現を工夫してはどうか。
- ・施策1 ②において、どのようなデータに基づき誘客活動を行うのか、具体的な調査内容を付け加えるなど、イメージが沸くような表現にしてはどうか。
- ・広域連携の部分において、世界遺産を目指す佐渡市など、具体的な記載を加えてはどうか。

政策11 新潟暮らしの魅力発信と移住・定住の促進

- ・「施策1 多様な支援による移住・定住の促進、関係人口の創出」②市内への就労促進 において、有給インターンシップをはじめとした就労促進の要素も表現してはどうか。

- ・政策指標において、様々な視点での新潟暮らしの魅力を測り、フィードバックでできるような指標を検討してはどうか。

分野6 安心・安全

政策12 市民生活の安心・安全の確保

- ・高齢者・子ども・障がいのある方など、誰もがこれまで以上に安心して歩けるようなまちづくりを目指すということをどこかに記載してはどうか。
- ・犯罪の多様化に伴う青少年の被害やサイバー犯罪について、対応する施策を記載してはどうか。
- ・「高齢者による交通事故」について、「高齢者が関わる交通事故」と表現を変えたほうが適切ではないか。
- ・交通安全はハード面での対策も重要であるため、関連性を記載してはどうか。
- ・「施策1 生活の安心・安全の確保」②交通安全意識の普及 に関連して、意識啓発だけでなく、高齢者の運転免許証返納への支援についても記載してはどうか。

政策13 災害に強い地域づくりと消防・救急体制の充実

- ・「地域防災力」という表現について、災害の被害を最小限に抑えることも重要であるため、「地域防災力・減災力」としてはどうか。
- ・「新潟地震など」について、最近の災害も踏まえた趣旨とするために、例えば「新潟地震や東日本大震災など」としてはどうか。
- ・住宅・建築物の耐震化について、耐震調査や家具などの転倒防止についても記載してはどうか。
- ・「政策指標A. 地震被害想定における死者数」について、どのような被害想定なのか明記してはどうか。
- ・政策指標Aについて、施策とのつながりが分かりづらいため、施策の結果が分かりやすい指標にしてはどうか。
- ・「政策指標B. 日頃から災害に対する備えをしている市民の割合」について、漠然としているため、具体的な指標が必要ではないか。
- ・「政策指標D. 病院収容所要時間（119番通報から医師引継ぎまでの時間）」について、全国や県など比較対象を記載したほうが分かりやすいのではないか。

分野7 まちづくり・インフラ

政策 1 4 誰もが暮らしやすく、持続的に発展する

まちづくりの推進

- ・住宅関係の温暖化対策として、Z E H（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）や L C C M（ライフ・サイクル・カーボン・マイナス）といった施策を記載してはどうか。
- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「都心部での緑の不足」について、屋上緑化や壁面緑化といった手法を記載してはどうか。
- ・都市と田園・自然が「調和・共存」という表現について、「調和・共生」としてはどうか。
- ・小型バスやタクシーなど民間事業者との連携について、P F S・S I B（成果連動型民間委託契約）といった手法を検討してはどうか。
- ・鉄道駅の整備について、エレベーター設置は住民にとって暮らしやすさの向上につながるため、「エレベーター設置」と明確に記載してはどうか。
- ・都心部の再開発について、建築物に太陽光パネルを設置してもらおうといった、エネルギーの自給について記載してはどうか。
- ・港湾について、災害時の B C P 確保という観点から、耐震性の向上・強化を記載してはどうか。
- ・空き家対策に加えて、木造密集地の火災対策（非木造や空き地の配置など）を記載してはどうか。
- ・空き家対策について、啓発事業や空き家バンクといった具体的な対策を記載してはどうか。
- ・「政策指標 C. 都心エリアの平均地価変動率」について、オフィス空室率や従業員数など、商業地としての集積や賑わいを測る指標にしてはどうか。
- ・「政策指標 D. 都心部で以前と比べ緑が増えたと思う市民の割合」について、壁面緑化を含めた緑被率など客観的な指標にしてはどうか。

政策 1 5 安心・安全で持続可能なインフラの整備

- ・下水道施設の課題や厳しい状況について、市民が安心できるように表現してはどうか。
- ・下水道管渠について、総延長を記載したほうが分かりやすいのではないかと。
- ・水害対策として、新潟市らしい流域治水（田んぼの遊水地など）の考え方を記載してはどうか。
- ・「政策指標 A. 道路（橋を含む）が適切に整備・管理されていると思う市民の割合」について、整備率や修繕度合いなどといった定量的・定数的な指標にしてはどうか。

- ・「政策指標B. 一人当たり年間平均断水・濁水時間」について、ダウンサイジングの進捗などを測れるような指標にしてはどうか。

分野8 環境

政策16 将来世代に向けた豊かな自然と生活環境の保全

- ・基本的方向について、新潟市議会で議決された気候非常事態宣言を踏まえた文言としてはどうか。
- ・「温室効果ガスの現状」のCO₂排出量について、1世帯当たりではなく1人当たりで評価したほうが適切ではないか。
- ・生物多様性について、地球温暖化との関係性や、外来種の増加、絶滅危惧種の増加といった内容を入れてはどうか。
- ・具体的な施策の「省エネ・再エネの推進」について、LNG（液化天然ガス）、アンモニア、水素、洋上風力といった二酸化炭素等の排出量が少ないとされるエネルギーについて記載してはどうか。
- ・「施策2 循環型社会の推進」②地域の環境美化の推進 の「若年層が参加しやすい啓発手法を検討」について、幅広い年代層を対象とした表現にしてはどうか。
- ・施策2②について、他自治体の事例を参考に、環境美化の啓発にかかる具体的な手法を検討してはどうか。
- ・施策2③持続可能なごみ処理体制の整備 の大規模災害時の体制について、国や県などとの関係構築を記載してはどうか。
- ・災害時の廃棄物について、一時保管場所の確保といった対策を記載してはどうか。
- ・ラムサール条約湿地の自治体認証を打ち出していくことは重要ではないか。
- ・「施策3 自然との共生」に「環境教育を推進し、小中学生はじめ市民に対する環境教育、生物多様性教育を推進し、環境NGOなどと協力し、自然環境に対する知識の普及啓発を高めます。」と記載してはどうか。
- ・次世代を担う子どもたちが自然環境を守る意識を持つよう、環境教育を推進して積極的に行動できる人材を育成することを記載してはどうか。
- ・「政策指標C. コハクチョウ飛来数」は生物多様性との因果関係が薄いため、ほかの指標を検討してはどうか。

(3) 持続可能な行財政運営

1 市民から信頼される持続可能な行政運営

- ・用語について非常に横文字が多すぎるため、分かりやすくなるような工夫をして

はどうか。

- ・高齢者など、デジタル技術の活用が苦手な人についてのフォローアップについて、記載してはどうか。
- ・SDGsのアイコンとして、5番のジェンダー平等が掲げられているが、新潟市の現状/将来を見据えた課題のところに表現として加えてはどうか。関連していると思われる「施策4 市政を支える職員育成と環境整備」①次代に対応した人材の育成 については、表現を工夫してはどうか。
- ・「施策1 市民の視点を大切にしたい信頼される市政の推進」と施策4①の中に記載のある、「市民視点」と「市民目線」という言葉の使い分けについて、表現を工夫してはどうか。
- ・施策1①市民目線に立った信頼される市政の推進 について、市民と行政の情報の相互活用という目線を加えてはどうか。
- ・施策1①に記載のある「聞く」という言葉について、「聴く」に変えてはどうか。
- ・「施策2 人口減少の進行を踏まえた経営資源の効果的配分と民間活力の導入推進」の中に記載のある、「経営資源」と「行政資源」という言葉の使い分けについて、表現を工夫してはどうか。
- ・「施策3 自治体DXの推進」の「自治体DX」について、具体的なイメージが湧くような表現にしてはどうか。
- ・施策3②DXによるスマートな行政の実現 について、デジタル化するうえでのリスク管理に対し、市民の不安を取り除くために、より積極的な姿勢を打ち出していくような、表現にしてはどうか。
- ・「政策指標C. 民間活力導入効果」について、現状値ゼロ円とは何を意味しているのか、少し説明を加えてはどうか。

2 市政の基礎となる持続可能な財政運営

- ・財政運営の記載内容に関して、市民にわかりやすく、市民一人あたりといった単位あたりのコストを示すなど、表現を工夫してはどうか。
- ・行財政運営について、市民に現状と対応する取組がしっかり伝わるよう、丁寧に示してはどうか。例えば、「政策指標 A. 将来負担比率」について、より分かりやすくするか、別の指標を検討してはどうか。
- ・「施策2 ファシリティマネジメントの視点に基づく財産経営の推進」の表題に記載のある、「ファシリティマネジメント」という言葉について、分かりやすくなるよう、表現を工夫してはどうか。
- ・施策2②公共施設やインフラ資産の長寿命化 について、未利用地に関する視点を加えてはどうか。

③ 多様な主体との連携・協働による新しい価値の創造

- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「パートナーシップの重要性」について、障がいの団体等とも連携していくことが分かるように、表現を工夫してはどうか。
- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「住民自治の推進」について、民間活力の活用代わりに、地域経営に関する視点を加えてはどうか。
- ・「政策指標A. SDGsの達成に向けて具体的に取り組んでいる市民の割合」について、SDGsと限定せずに、より包括的に捉えられるような表現になるよう、工夫してはどうか。
- ・「政策指標B. 地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数」について、市民や企業からの協働提案に関する指標を追加してはどうか。また、全庁的に協働を推進するための体制整備について、記載してはどうか。

7 区におけるまちづくりの方向性

(1) 区におけるまちづくりの方向性

- ・区ビジョン基本方針と新潟市全体の都市構想との関連や、各区どうしの連携、全体イメージの中での区の将来像や区を横断したまちづくりなどについて記載してはどうか。

(2) 区ビジョン基本方針

東区

- ・「東区独自の魅力を活用し区内外へ発信することにより、だれもが魅力を感じることができるまちを目指します。」の記載について、魅力を感じてもらうことで”東区としてどうなりたいのか”という観点まで記載してはどうか。

中央区

- ・「歩きやすく自転車や公共交通で移動しやすい環境の整備」の記載について、未来を見据えて、次世代モビリティの観点も加えてはどうか。

西蒲区

- ・「広大な越後平野には手入れの行き届いた水田や畑が広がり」という表現について整理が必要ではないか。

